

よろずサポートレポート

YOROZU Support Report

秋田県よろず支援拠点

0円相談

幅広い経営知識と高い専門性を有する多数のコーディネーターが、相談者の課題を抽出把握して、課題解決を目指した提案に基づきチーム支援します。

【お問い合わせ】 TEL.018-860-5605



「伝え方」で、強みを活かす

チーフコーディネーター
加藤 剛 かとう たけし

大手小売業において店長、商品部長、プロジェクト室長などの経営幹部を経験し、独立後は海外展開支援コンサルタントとして日本の食や伝統産業の海外展開をサポート。

よろず支援拠点では、事業者様の課題解決に向け、コーディネーターがチームとなって支援をします。今回は、事業者様の持つ強みやポテンシャルを最大限に活かすため、「伝え方」に工夫をした支援の実績を紹介いたします。事業者様がご自身で気づいていない強みや、上手くお客様へアピールできていない強みが必ずあります。ちょっとした仕掛けを加えることで、お客様に商品やサービスの魅力が伝わり、ひいては事業者様の自信へと繋がります。

よろず支援拠点がチームでサポート

事業にはご自身で気づかない強みが必ずあります。一緒に考えましょう。



- 1. SHOES Torie(シューズトリエ)**
秋田県秋田市中通7-2-1 秋田駅前おしゃれかんアルス2F
TEL:018-887-5530
- 2. 村岡三奈子(全国通訳案内士(英語))**
秋田県由利本荘市 mina5foreverlove@gmail.com
- 3. 株式会社きららホールディングス**
秋田県秋田市大町2-5-1 TEL:018-895-7272

1. 視点を変えて、伝える

コロナ禍で外出が減った今、靴の販売は非常に厳しい状況にある。秋田駅前アルス2階のシューズトリエは、駅前立地という強みを持ちながらも売り上げの向上に苦戦。今回、よろず支援拠点による「0円店舗改善」で一新した店内のPRも兼ねて、DM(ダイレクトメール)のデザインを大きく変更した。従来のDMは、店内写真を掲載し、文字で情報を伝えるデザインとなっていたが、よろず支援拠点では「裸足」に焦点を当てたデザインを提案。靴下を脱いで裸足で過ごすことが多くなる季節、あえて靴ではなく「裸足」をアピールすることで顧客の購買意欲を高めるデザインに変更した。洗練されたデザインに変えたことは店のイメージアップにも繋がり、ファッションビルに入っているという強みを打ち出すことにも成功。このDMにより、プチリニューアルセールで10日間で対前年124%の売り上げを記録した。事業者自身も、これまで気づかなかった切り口で店のイメージが変わることを肌で感じ、今後はDMのみでなく別の媒体でもPRをしていきたいと意欲を見せている。



支援のポイント

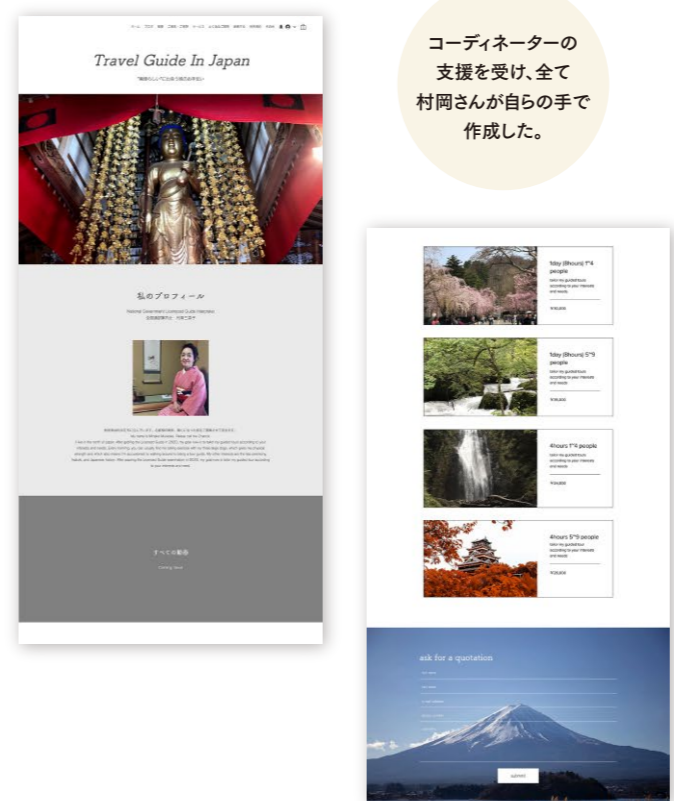
コーディネーター
伊藤 一恵 いとう かずえ

事業者様の目線で真っ直ぐに伝えるよりも、お客様の思考になって考えることが重要です。事業者様に寄り添いながらも、新たな視点が得られるようサポートします。



2. スキルを高めて、伝える

由利本荘市在住の村岡三奈子さんは、コロナ感染拡大の直前に全国通訳案内士(英語)の資格を取得。「今のうちでできることを」と、よろず支援拠点を訪れた。全国通訳案内士という強みを外国人観光客へ向けて発信するため、物理的距離を超えることを可能とするICTの分野に挑戦。自身のホームページやSNSを開発していく方針に決定した。よろず支援拠点では、アカウントの作成から始め、メニューの作成、ブログの書き方等を段階的に支援。コーディネーターが都度課題を設定し、事業者自らがその課題を進めていく方法を取り、面談以外の期間はメール等で相談や質問に対応し事業者をサポートした。進めていく中で、事業者本人にも新たな疑問が生まれ、それらを解決していくことでさらに理解が深まっていくという。全く経験のない状態から挑戦した村岡さんだが、現在は課題としては扱っていなかった動画作成にも自ら取り組んでいる。一連の支援を通して身に付けたICTスキルは、事業者の自信へと確かに繋がっている。



支援のポイント

コーディネーター
高崎 翔太 たかさき しょうた

具体的な課題設定をし、少しずつ進めていくのがICTのアプローチです。負担にならないよう、事業者様それぞれのレベルに合わせて定期的に支援をしていきます。



3. 具体的にイメージさせて、伝える

児童福祉、高齢福祉分野で事業を展開する株式会社きららホールディングスは、要介護者を対象とした3つの新たなサービスの提供を始めた。コンセプトを「生きがいを叶えるサービス」とし、①希望する場所へおでかけできる、②Zoomで記念日の生配信等を味わえる、③思い出の風景等をVR視聴できるサービスの3つを用意。要介護5の方も利用でき、「明日の楽しみを諦めてほしくない」という強い思いが込められている。しかしながら、告知チラシの両面に情報を盛り込んでいたため募集としての意図が伝わりづらく、予約の取り込みが苦戦。よろず支援拠点では、月の特集としてシーズンリティをつけた上でプラン別に分けることで、実際のサービスがイメージしやすくなるよう改善した。さらに、対象者を自社施設の利用者に限定。施設スタッフとの連携が可能となり、より安全・安心で個人の希望に沿ったプランが実現できるようになった。改善後、実際に予約へ繋げることに成功。利用者の生きがいを叶えるため、スタッフのモチベーションも高まっている。



支援のポイント

コーディネーター
大森 麻美 おおもり あさみ

情報量を絞り、利用する方に分かりやすく提示することが、商品の魅力を発信するポイントです。お客様に魅力を伝えることは、問い合わせを増やすことにも繋がります。

